

三内丸山通信

遺跡報告会開催！

特別研究の 成果発表！

三月十一日、縄文時遊館で平成二十三年度特別史跡三内丸山遺跡報告会が開催されました。

東日本大震災から一年を迎えた日であり、全員で黙とうを行った後、今年度の発掘調査の成果（第五十三号に掲載）と特別研究の成果報告が行われました。

三内丸山遺跡の盛土場の形成プロセスの解明

安昭炫さんを研究代表者とするグループ（パレオ・ラボ、東京大学）は、盛土を詳しく観察し、その堆積物にどのような植物が含まれているのかを分析することによって、盛土が作られる以前と盛土が作

られている時の集落の環境を研究しました。

盛土が作られる前の地層（縄文時代前期中葉以前、約五五〇〇年前）からは細かい炭が多く出土し、草原のような環境であったことが推定されました。

また、盛土からはクリの花粉が多く発見され、当時の集落には、クリ林が多くあり、その周辺の土が盛土の地層として堆積しているものと考えられました。

縄文時代のマメ類利用の研究

佐々木由香さん（パレオ・ラボ）は、三内丸山遺跡を中心とする青森県内の縄文時代の遺跡から出土したマメの仲間の炭化種子について、詳しく研究を行いました。

三内丸山遺跡から出土したマメの仲間にはアズキに似たものが八〇点、マメの仲間が三点あることが分かりました。マメの仲間は、生では残りにくく、そのものが食用であるため、残りにくい特徴があります。マメの仲間が、三内丸山遺跡から多く出土することは、当時、集落で日常的

にアズキに似たマメを利用していたことが考えられます。

また、他遺跡から出土したアズキに似たマメと比較した結果、縄文時代の青森県ではアズキに似たマメの利用が日常的で、時代を経ると大きくなるといいう可能性を指摘しました。



【三内丸山遺跡でみつかったアズキに似たマメ】

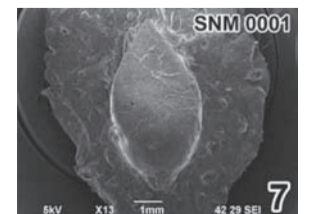
土器圧痕・生体化石資料の比較検討による縄文集落における植物性食料の貯蔵形態と家屋害虫の実証的研究

小畑弘己さん（熊本大学）

を研究代表者とするグループは、土器に残された圧痕を調査しました。植物種子・昆虫・貝などの可能性のある圧痕にシリコンゴムを流し込んでレプリカを作り、走査電子顕微鏡で観察・撮影し、その圧痕が何であるのかを調べました。四万二千点を超える土器を観察した結果、百三十一点の土器の百三十八か所で圧痕がみつかり、最終的に種類を判断できたものは六〇点の六十五か所でした。昆虫ではコクゾウムシの仲間が多く、コナナガシクイ、ケシキスイムシの仲間、マゲ



【コナナガシクイ】



【ミゾソバ】

土器の圧痕から、三内丸山遺跡ではクリをはじめ、多くのデンプン質食料の貯蔵が行われ、それらを食べる昆虫も多く存在していたことが推測されました。

平成23年度 第3回企画展

西盛土の発掘調査

—第35次発掘調査最新情報展—

三内丸山遺跡では、平成21年度から23年度までの3か年にわたり、西盛土の調査を行いました。この企画展では、今年度の調査で出土した遺物と調査成果、これまでの調査によって得られた分析結果などを紹介しています。たくさんの方々のお越しをお待ちしております。

平成24年 3月10日(土)～7月1日(日)





縄文遺跡群世界遺産 登録推進フォーラム を開催！ (東京都)

平成二十四年一月二十九日、北海道、青森県、岩手県及び秋田県と関係する市町で組織する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部では、より多くの方々に縄文遺跡や縄文文化の価値や魅力を知っていただくため、東京都の有楽町朝日ホールで、縄文遺跡群の世界遺産登録を推進するフォーラムを開催しました。



【パネルディスカッションのようす】

フォーラムでは、縄文遺跡群世界遺産登録推進会議座長の岡田康博青森県教育庁文化財保護課長が、四道県が世界遺産登録にむけて一緒に取り

組んでいることなどを説明した後、縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員の小林達雄國學院大學名誉教授が「縄文文化の特性と主体性」、岡村道雄奈良文化財研究所名誉研究員が「縄文遺跡に見る自然との共生」、同専門家委員会委員の辻誠一郎東京大学大学院教授が「環境史から見た縄文文化」について講演を行いました。

その後、縄文遺跡群世界遺産登録推進専門家委員会委員長の菊池徹夫早稲田大学名誉教授をコーディネーターに迎え、パネルディスカッション「縄文遺跡群の世界遺産登録を目指して」が行われ、「縄文文化は世界遺産にふさわしいか」や、「なぜ四道県の縄文遺跡群で世界遺産を目指すのか」などについて話し合われました。

最後に、コーディネーターを務めた菊池徹夫さんが「豊かな精神文化を持ち、一万年以上も自然とともにそこに住みながら生活していた縄文文

化には、世界に押し出す価値がある。世界遺産登録には、専門家だけでなく、一般の方々の協力が必要。特に学生、生徒、児童の協力が一番の基盤になる。」とまとめ、参加者に、協力を呼びかけていました。

首都圏の方々を中心に約五百人が参加した会場では、熱心に聞いている人が多く見られ、縄文文化に興味がつきやすいようでした。

四季の縄文DAY 「三内丸山縄文冬祭り」 が開催されました

二月十八日(土)～十九日(日)、「三内丸山縄文冬祭り」が開催されました。天候は、あいにく吹雪模様でしたが、二日間で約千九百人のみなさまが訪れました。

「雪だるまコンテスト」には、二日間で百三十一名の方が参加されました。テレビのキャラクターやかまくら形など、ユニークな雪だるまがどんどんできていきました。後日の写真審査の結果、十三作品が入賞しました。



【ホームページで公開中】



「大型すべり台」は縄文時遊館トンネル出口付近に二本つくられました。家族連れや子どもたちが続々と訪れ、スリルを味わいながら楽しく滑っていました。

「雪中宝さがし大会」では、参加人数が一日先着百名であり、早くから整理券をもらうためにたくさんの方が並びました。雪の中に隠されたくじ入りの宝物を夢中でさがしました。賞品が当たった人も当たらなかった人も、みなさん楽しんでいました。

縄文時遊館では、「草木染め体験教室」「縄文グッズ作り体験」「縄文生活体験」が行われました。

その他、クイズラリーでは、少し難しい問題もありましたが、全問正解した子どもたちは、とても喜んでいました。

お知らせ

「三内丸山縄文春祭り」
が開催されます

四月二十八日(土)～五月六日(日)に「三内丸山縄文春祭り」が開催されます。大型掘立柱建物と同じく高い高さから遺跡を一望できる縄文パノラマビューや、クイズラリーなどを予定しています。桜咲くころ、遺跡で、縄文の柔らかな春の風に吹かれてみませんか。

春から「さんまる
縄文体験・縄文講座」
がはじまります

今年度も縄文講座・縄文体験がはじまります。いろいろなメニューを用意していますので、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。



詳細が決まったらホームページなどでお知らせします。楽しみに待っててね！



さんまる

三内丸山遺跡のご案内

休館日

12月30日～1月1日

見学料

無料

開館時間

10月～5月は9時～17時(4/28～5/6は18時まで)
(入場は閉館の30分前まで)

さんまるミュージアムの定時案内

10:50～、13:50～の2回行っています
(所要時間約20分)

ボランティアガイドの定時案内

1回目は9時15分から
その後は10時から1時間ごと、最後は15:30から

見学の問い合わせ先

017-766-8282 (三内丸山応援隊)

交通機関

- 青森市営バス
- JR 青森駅から⑥番乗り場「運転免許センター」行き
- 三内丸山遺跡前で下車 料金300円 約20分
- ねぶたん号
- JR 新青森駅南口から左回り乗車
- 三内丸山遺跡前で下車 料金200円 約10分